

地域づくり人材研修 『農村プロデューサー』養成講座について

令和3年3月18日

農村振興局



地域づくり人材の育成の仕組み等の方向性（概要）

令和3年1月20日
第8回検討会資料より

- 近年、**地域への「目配り」**をする地方自治体職員の減少や体制の脆弱化等の課題が顕在化。
 - このため、農林水産省は、**地域の人々の思いや実情に応じて①～④のようなプロセスを組み立てていく地域づくり人材の育成**を主眼とする**研修を実施**（令和3年度から実施予定）。
 - 農村地域及びそこで暮らす人々は、それぞれ個性を有しており、**地域づくりに定型的な「解答」はないので、地域に合った「解法」を模索していける人材**が求められる。
 - また、全国各地の**研修修了生が悩みや情報を共有し、支え合いながら活動できる環境を整備**するための**ネットワークを構築**。
- ※ 地域づくり人材や研修の愛称についても検討。
（例：「農村着火型プランナー」「農村着火型プランナー養成塾」）

- ① 地域の内発性を引き出す環境づくり、動機づけ
- ② 地域の状況把握・地域の範囲の設定
- ③ 地域の実践計画づくり
- ④ 継続的な実践活動への移行に向けての寄り添い



写真：農山漁村ナビHP（農林水産省）より

地域づくり人材の育成研修

- **地方自治体の職員※を対象**として、**現場でのOJT等を重視**した研修を実施。
- ※ 職員減少や体制の脆弱化等の課題を**特に市町村**が抱えていることにも留意
- 研修の一部には**オンライン講座を導入し、地方自治体の職員でなくても受講できること**とすることにより、**地域づくり人材の裾野を拡大**。
- ※ 地方自治体の職員以外の地域づくりに意欲がある者が受講を希望すれば、これ以外の講座についても受講可とする
- 研修及び研修修了生の活動を後押しするための**国の支援方策について、検討**。

研修修了生等のネットワーク

- **研修修了生、講師陣をつなぐ**ネットワークを構築。
- 出先機関職員を中心に、**農林水産省もネットワークに参画**することにより、**地域づくりを後押しする情報提供や相談対応**を行いつつ、**現場の実態把握機能を強化**。
- 農林水産省が中心となってネットワーク内外から把握した「**現場の声**」を、**関係府省とも共有しつつ、具体的な政策立案に反映**。



将来的な構想

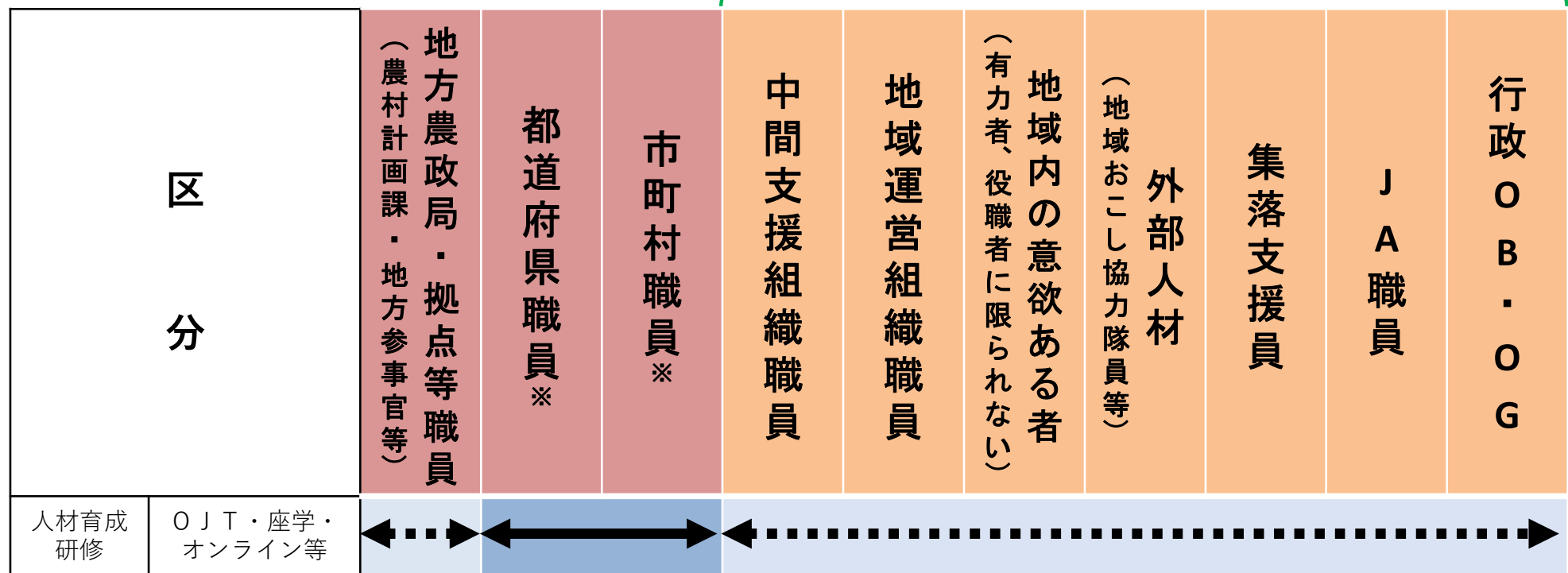
- 都道府県、大学等との連携も含め、**研修の実施主体の裾野**が広がることを目指す。

(参考) 研修の対象者

令和3年1月20日
第8回検討会資料より

- 研修の実施に当たっては、**地方自治体の職員※**（**職員減少や体制の脆弱化等の課題を特に市町村が抱えていることにも留意**）を対象に、**現場でのOJT等を重視**する。
- また、研修の一部には**オンライン講座を導入**を導入し、**地方自治体の職員でなくとも受講できる**こととすることにより、**地域づくり人材の裾野を広げていく**。
（さらに、地方自治体の職員以外の地域づくりに意欲がある者が受講を希望すれば、これ以外の講座についても受講可とする）

地域づくりに意欲がある者



※ 地方自治体の職員として、農林水産、社会教育、福祉、企画等の部局の職員、地域担当職員、
農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

令和3年3月19日(金)
プレスリリース及びホームページ公開予定



目次

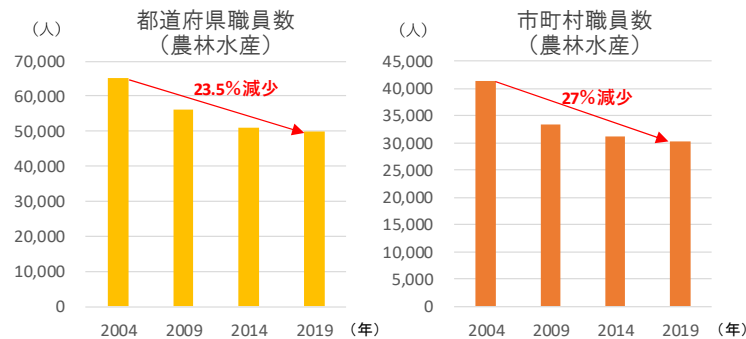
『農村プロデューサー』養成講座の概要	・・・	P	～
カリキュラム	・・・	P	～

『農村プロデューサー』養成講座 とは？

- 『農村プロデューサー』とは、
 “地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートする人材”のこと。

『農村プロデューサー』養成講座を開講する背景

都道府県・市町村の職員が減少する中で、
地域に寄り添う人材の必要性が増大。



※ 一般行政職員数も15年間で10%以上減少。
 （出典）総務省「地方公共団体定員管理調査結果」から作成。（一部事務管理組合の職員を除いている）

- 地域づくりに決まった答えはありません。
- だからこそ、地域に寄り添ってサポートする人材が今、全国各地で必要なのです。
- 本講座は、一方通行的な講義による知識の習得よりも、演習や実践活動による現場力アップを重視します。
- 本講座の修了生（「農村プロデューサー」）がネットワークでつながり、
 支え合っている環境を整えることで、全国各地の人材同士の連携も
 深めていきます。



（イメージ）地域住民 と 農村プロデューサー

講座の種類

以下の2種類のコースで構成。

① 入門コース

地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能な
 オンライン講演。

② 実践コース

地方自治体職員及び地域づくりに意欲がある者等を
対象として、事例を基にした模擬演習や地元での実践を
通じ、地域づくりをプロデュースする者を養成。

（参考）実践コースの受講対象者

地域づくりに意欲がある者



※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要

- 「入門コース」「実践コース」の2種類のコースで構成。さらに、研修修了生（実践コース）と講師陣をつなぐネットワークを構築。
- オンライン形式（主にライブ配信による講義や演習）も併用し、実例を基にした模擬演習や研修生自らの実践活動による現場力アップを重視。

『農村プロデューサー』養成講座 ～地域に消えない火を灯せ～

1. 研修の目標

- ・ 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得。

2. 主な内容

オンライン講演（ライブ配信）

- ・ 活動内容や成果、動機等を通じ、地域づくりのワクワク感を体感。

『農村プロデューサー』入門コース（定員なし）

- ・ 地域づくりに造詣の深い者等を講演者（講演者は毎回交代）とした、オンライン上の講演。ライブ講演中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月3回、90分程度（全6回）。

3. 受講対象者

- ・ 地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能。
- ・ 実践コースの受講希望者は、入門コースを受講することが望ましい。

1. 研修の目標

- ・ 地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成。

2. 主な内容

（1）オンライン講義（ライブ配信）

- ・ 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶ。
- ・ 地域づくりに造詣の深い者を講師とした、オンライン上の講義。ライブ講義中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月2回、90分程度（全4回）。

（2）対面講義（実例を基にした模擬演習等）

- ・ 実例を基にした模擬演習等により、（1）で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。
- ・ 2泊3日、3地方会場で開催。

（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）

- ・ （2）で学んだ内容を基に、研修生（グループも可）が講師と相談の上活動のテーマを決定し、地元で実践。
- ・ 農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。

『農村プロデューサー』実践コース（30人程度）

- ・ 成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。
- ・ 月1回、90分程度（全2回）。

3. 受講対象者

- ・ 地方自治体職員※及び地域づくりに意欲がある者等を想定。

※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

ネットワークへの参画希望者



※ 詳細については、別添「カリキュラム」を参照。
 ※ 受講人数・開催回数は、令和3年度に予定しているもの。

新しい研修スタイルの提案及び実施スケジュール（予定）

- 実践コースでは、「型にはまった地域づくり」を目指すのではなく、「その地域に合致した地域づくり」を考えるスタイルを目指していく。
- 「オンライン講義」「実例を基にした模擬演習」「研修生自らの実践活動」の3ステップで、個々の研修生の現場力アップをフォロー。

新しい研修スタイルの提案（実践までを段階的にフォロー）

これまでの研修スタイル



研修で学ぶ内容は
有意義だが…



すぐに地域で実践するには
ハードルが高い場合も

研修から実践までの段階の段差が高すぎる可能性。

新しい研修スタイル



実例を基にした模擬演習により
オンライン講義で学んだことを
実践に移すためにトレーニング



講師のフォローを受けながら
研修生自ら実践活動にチャレンジ
研修修了後の活動を支えるネットワークも構築



現場力を段階的に身に着けるためのきめ細やかな段階を用意！！

実施スケジュール（予定）

令和3年度の実施スケジュール（予定）は下記のとおり。

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
入門コース （オンライン講演）		全6回											・ 実践コースの募集開始は、 6月下旬頃の予定。
実践コース（1） （オンライン講義）					全4回								・ 実践コース（2）の会場は、 地方農政局の会議室を予定。
実践コース（2） （実例を基にした模擬演習）						仙台 会場	岡山 会場	熊本 会場					・ 感染症拡大等により、 スケジュールが変更となる 可能性がある。
実践コース（3） （研修生自らの実践活動）							オンラインゼミ 全1回	研修生 地元で実践	研修生 地元で実践	オンラインゼミ 全1回			
研修修了生等の ネットワーク											ネットワーク 構築へ		

入門コース オンライン講演(ライブ配信)

(講演のねらい) 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得する。

(受講定員) 定員は設けない(地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能)

(研修実施方法) オンライン

	19:00	19:30	20:00	20:30
2021年		60分(19:00～20:00)	30分(20:00～20:30)	
5/11 (火)		＜オンライン講演＞ 第1回【総論分野】	チャットによる 質疑応答等	
5/20 (木)		60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第2回【イノベーション分野】	30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
5/31 (月)		60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第3回【行政分野】	30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
6月上旬		60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第4回【民間分野】	30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
6/16 (水)		60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第5回【都市農村交流分野】	30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
6/24 (木)		60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第6回【地域実践分野】	30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
	19:00	19:30	20:00	20:30

※ 全6回程度。

※ 講演者は毎回交代。

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合があります。

実践コース（１）オンライン講義（ライブ配信）

（講義のねらい） 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶことを目的とする。

（受講定員） 30人程度（研修生全員）

（研修実施方法） オンライン

	10:00	10:30	11:00	11:30
2021年 8～9月頃		60分(10:00～11:00) ＜オンライン講義＞ 1 開講式・オリエンテーション 講師の自己紹介、研修内容・目的等の説明	30分(11:00～11:30) チャットによる 質疑応答	
8～9月頃		60分(10:00～11:00) ＜オンライン講義＞ 2 農村プロデューサーの役割①・② 動機づけの手法 地域の現状把握・分析手法	30分(11:00～11:30) チャットによる 質疑応答	
8～9月頃		60分(10:00～11:00) ＜オンライン講義＞ 3 農村プロデューサーの役割③・④ 実践（行動）計画づくり 実践活動への移行	30分(11:00～11:30) チャットによる 質疑応答	
8～9月頃		75分(10:00～11:15) ＜オンライン講義＞ 4 地域づくりに関するクエスチョン・タイム チャットによる質疑応答	15分(11:15～11:30) 「(2)対面講義(実例を 基にした模擬演習)」 の日程連絡等	
	10:00	10:30	11:00	11:30

※ 4の質問は、事前受付も実施。

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合がある。

実践コース（１）オンライン講義（ライブ配信） 実施内容

	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	開講式・オリエンテーション	実践コースの実施に当たり、講師の自己紹介、研修内容・目的等の説明を行う。	オンライン講義 90分	
2	農村プロデューサーの役割 ①・② 動機づけの手法 地域の現状把握・分析手法	以下の点の基礎的部分に重点を置いたオンライン講義を行う。 （動機づけの手法） ・ 地域への入り方（地域の誰に対して、どうアプローチすればよいのか） ・ 地域に対する動機づけ（地域からやりたいという意思「声」を引き出す、自らそう言いたくなる環境づくりのポイント「仕掛け」と大切さ） ・ 誰がしたいか？させたいか？の明確化（１プロジェクトに対し、それは誰がやりたくて始めるのか、させたい誰がいるのか、何を目的に取り組むのか、やってどうなるのかななどを明確にする重要性） ・ 計画書の重要性（地域づくりに求められる、今後の構想や実現プログラムをまとめた「実践『行動』計画書」の必要性と、話し合いによる計画書づくりと完成するまでのプロセス） （地域の現状把握・分析手法） ・ 地域の現状把握（対象地域や、周辺地域の現状を分析・診断する「括りの設定につながる」手順と手法） ・ 括りの設定（将来的に継続した活動の展開が期待できる範囲、いわゆる括りの検討と、その設定の手順と手法） ・ 計画策定に関わる組織の立上げ（将来の実践活動への移行を見据え、その担い手となり得る可能性のある、計画策定に関わる地元と市町村のプロジェクトチーム・ワーキンググループの必要性や、立上げの手順）	オンライン講義 90分	
3	農村プロデューサーの役割 ③・④ 実践（行動）計画づくり 実践活動への移行	以下の点の基礎的部分に重点を置いたオンライン講義を行う。 （実践（行動）計画づくり） ・ あるべき姿の明確化（括りを構成する地域ごとの５年後・１０年後のあるべき姿と、括り全体のあるべき姿を明らかにする視点や作業手順。また、括り全体が向かうべき姿を実現するための計画づくりの手順と手法） ・ 計画づくりに向けたテーマ設定（計画策定チームによる計画づくりに向けたテーマ設定の手順） ・ 実効性の高い「進行プログラム」作成（地域の話合いによって、いつ・誰が・何のために・何を・どうする・そしてどうなるまでを見てわかる形、すなわち「行動計画」に仕立てて、地域全体に示し、合意形成を図るまでの手順と手法） （実践活動への移行） ・ 自らが動き出したくなる環境整備（計画書を実践活動に移行していくための、実践活動組織の立上げの必要性や、立上げまでの手順） ・ 実践の主体や役割分担に関する「実践プログラム」作成（実践活動における地域の活動組織と行政の関わり方、役割分担や関わりの度合い） ・ 実践活動の下支え（実践活動を起動し継続した活動にしていくための、事業の選定や紹介・新たな仕組みづくりといった、行政が担うべき下支え的な部分）	オンライン講義 90分	
4	地域づくりに関する クエスチョン・タイム	これまでの講義内容に加え、農村地域における地域づくりに関した質疑応答を行う。 質問は、１～３で回答できなかった内容のほか、Webサイト等からも事前受付。 講師回答後、全体を通しての質疑応答。	オンライン講義 75分	

※ ４の質問は、事前受付も実施。

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合がある。

※ 講師は一人となる場合もある。

実践コース（2）実例を基にした模擬演習等（対面講義）

（講義等のねらい） 実例を基にした模擬演習等により、「オンライン講義」で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。

（ 受 講 定 員 ） 1地域10人程度(3地域の開催)。 仙台会場:9/27(月)～29(水) 岡山会場:10/20(水)～22(金) 熊本会場:11/15(月)～17(水)

（ 研 修 実 施 場 所 ） 地方農政局の会議室

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00		
2021年 1日目						受付	オリエンテーション等	60分(14:00～15:00) ＜講義＞ 1 地域をめぐる事情	休憩	90分(15:15～16:45) ＜講義＞ 2 地域づくりに関する府省横断の連携施策等	休憩	60分(17:00～18:00) ＜講義＞ 3 オンライン講義の振り返り	(夜) 意見交換会
2日目		90分(8:45～10:15) ＜模擬演習＞ 4 農村プロデューサーの役割① 動機づけの手法 (地域が自ら取り組みたくなる環境づくり)	休憩	90分(10:30～12:00) ＜模擬演習＞ 5 農村プロデューサーの役割② 地域の現状把握・分析手法 (括りの設定と、材料集めの手法)	昼食		90分(13:00～14:30) ＜模擬演習＞ 6 農村プロデューサーの役割③ 実践(行動)計画づくり (住民がどのように計画づくりしていくかの「進行プログラム」作成)	休憩	90分(14:45～16:15) ＜模擬演習＞ 7 農村プロデューサーの役割④ 実践活動への移行 (何年、どのくらいの予算で何を実践して活動するか「実践プログラム」作成)	休憩	90分(16:30～18:00) ＜講義＞ 8 本日のおさらいと演習に向けての準備等		
3日目		240分(8:45～12:45) ＜総括＞ 9 地域づくりプログラムの構築、発表、実例との比較 (適宜、休憩を入れる)				総評／実践に向けて							
	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00		

※ 「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」の期間中に、講師が研修生に対し、実践したいこと等をヒアリングし、「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」の終了時まで、研修参加者と講師による話し合いで、実践予定の活動内容等を踏まえ、モデル研修生2名以上を決定する。

実践コース（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義） 実施内容

	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	地域をめぐる事情	昨今の農村地域における状況、それに対する現在の（これまでの）施策内容、取組事例などを学ぶ。	講義 60分	
2	地域づくりに関する 府省横断の連携施策等	行政（国及び地方自治体）の各々の役割と、地域づくりに関する関連施策を理解する。	講義 90分	
3	オンライン講義の振り返り	翌日からの対面研修に向けて、オンライン講義時のおさらいを行う。	講義 60分	
4	農村プロデューサーの役割 ① 動機づけの手法 （地域が自ら取り組みたくなる 環境づくり）	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 地域への入り方（地域の誰に対して、どうアプローチすればよいのか） ・ 地域に対する動機づけ（地域からやりたいという意思「声」を引き出す、自らそう言いたくなる環境づくりのポイント「仕掛け」と大切さ） ・ 誰がしたいか？させたいか？の明確化（１プロジェクトに対し、それは誰がやりたくて始めるのか、させたい誰かがいるのか、何を目的に取り組むのか、やってどうなるのかなどを明確にする重要性） ・ 計画書の重要性（地域づくりに求められる、今後の構想や実現プログラムをまとめた「実践『行動』計画書」の必要性と、話し合いによる計画書づくりと完成するまでのプロセス）	模擬 演習 90分	
5	農村プロデューサーの役割 ② 地域の現状把握・分析手法 （括りの設定と、材料集めの手法）	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 地域の現状把握（対象地域や材料集め、周辺地域の現状を分析・診断する「括りの設定につながる」手順と手法） ・ 括りの設定（将来的に継続した活動の展開が期待できる範囲、いわゆる括りの検討と、その設定の手順と手法） ・ 計画策定に関わる組織の立上げ（将来の実践活動への移行を見据え、その担い手となり得る可能性のある、計画策定に関わる地元と市町村のプロジェクトチーム・ワーキンググループの必要性や、立上げの手順）	模擬 演習 90分	
6	農村プロデューサーの役割 ③ 実践（行動）計画づくり （住民がどのように計画づくりして いくかの「進行プログラム」作成）	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ あるべき姿の明確化（括りを構成する地域ごとの５年後・１０年後のあるべき姿と、括り全体のあるべき姿を明らかにする視点や作業手順。また、括り全体が向かうべき姿を実現するための計画づくりの手順と手法） ・ 計画づくりに向けたテーマ設定（計画策定チームによる計画づくりに向けたテーマ設定の手順） ・ 実効性の高い「進行プログラム」作成（地域の話合いによって、いつ・誰が・何のために・何を・どうする・そしてどうなるまでを見てわかる形、すなわち「行動計画」に仕立てて、地域全体に示し、合意形成を図るまでの手順と手法）	模擬 演習 90分	
7	農村プロデューサーの役割 ④ 実践活動への移行 （何年、どのくらいの予算で何を実践して 活動するか「実践プログラム」作成）	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 自らが動き出したくなる環境整備（計画書を実践活動に移行していくための、実践活動組織の立上げの必要性や、立上げまでの手順） ・ 実践の主体や役割分担に関する「実践プログラム」作成（実践活動における地域の活動組織と行政の関わり方、役割分担や関わりの度合い） ・ 実践活動の下支え（実践活動を起動し継続した活動にしていけるための、事業の選定や紹介・新たな仕組みづくりといった、行政が担うべき下支え的な部分）	模擬 演習 90分	
8	本日のおさらいと 演習に向けての準備等	翌日の演習に向けて必要となる準備等。	講義 60分	
9	地域づくりプログラムの 構築、発表、実例との比較	地域への支援の在り方に重点を置いた地域づくりプログラムの模擬演習、成果発表、模擬演習と実事例との比較等を行う。	総括 240分	
10	モデル研修生の決定	「（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」の期間中に、講師が研修生に対し、実践したいこと等をヒアリングし、「（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」の終了時までに、研修参加者と講師による話し合いで、実践予定の活動内容等を踏まえ、モデル研修生２名以上を決定する。	—	

※ 10は、「（３）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）」の準備として行うものである。

実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践）

（講義等のねらい）「（2）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」で学んだ内容を基に、研修生（グループも可）が講師と相談の上活動のテーマを決定し、何例かを地元で実践する。農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。

（受講定員）1地域10人程度（3地域の開催）。

（研修実施方法）オンライン及び現地（企画内容や実践結果は、実施前後にオンラインゼミで報告し、講師及び他の研修生からアドバイス等を受ける）。

2021年 1回目 (実践前)	0:00 0:30 1:00 1:30 90分(0:00～1:30) <オンラインゼミ> 1 テーマ設定・実践プログラムづくり 事前に講師と相談の上作成したテーマと実践プログラムについて参加者全員でブラッシュアップ
実践日	<実践> 2 現場でプログラムを実践・ドキュメントの作成 実際の現場で実践しそのプロセスを整理・記録
2回目 (実践後)	90分(0:00～1:30) <オンラインゼミ> 3 成果の共有と検証 実践のプロセスと成果を共有、実践者の説明と参加者による質疑応答でスキルアップ 0:00 0:30 1:00 1:30

※ 日時は講師と研修生が打ち合わせの上決定。

※ 1は、効率的な進行の観点から、企画内容や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 3は、効率的な進行の観点から、結果や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 上記終了後、後日、オンラインによる閉講式を研修生全員で開催予定。研修の振り返りを行うとともに、「修了証」を授与。

実践コース（３）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践） 実施内容

	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	テーマ設定 実践プログラムづくり	モデル研修生が、活動計画と具体的実践内容を提示する。講師とゼミに参加する研修生全員で、モデル研修生の実践プログラムについて議論を重ねてブラッシュアップする。 なお、モデル研修生以外の研修生も、講師に質問しながら実践プログラムを作成する。	オンライン ゼミ 90分	
2	現場でプログラムを実践 ドキュメントの作成	No.1で決定した実践プログラムに沿って、研修生が実践活動に取り組む（職場の同僚等を交えたグループ実践を想定しているが、単独での実践も可）。実践活動中は、モデル研修生以外の研修生も含め、講師に個別に相談を行うことができる。 研修生全員が各自で実践した活動状況（プロセス等）をドキュメントにまとめる。	実践	
3	成果の共有と検証	研修生全員が、各自の実践活動の状況を報告する。モデル研修生の報告については、他の研修生と講師を交えて、成功につながるポイントや、現場が動き出すポイントなどを学ぶ。講師は、各研修生に対してアドバイスし、現場におけるプロデュース力を高める。	オンライン ゼミ 90分	

※ モデル研修生は、「（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」終了時までに決定しておく。

※ 1は、効率的な進行の観点から、企画内容や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 3は、効率的な進行の観点から、結果や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 上記終了後、後日、オンラインによる閉講式を研修生全員で開催予定。研修の振り返りを行うとともに、「修了証」を授与。